

春爛漫の彦根・安土を歩く

2018.4.3

【佐和山城址】

彦根駅の北側、佐和山（232.5m）にある城跡です。不破（ふわ）の関があった関ヶ原（せきがはら）に近く、交通の要衝でした。近江守護佐々木氏によって築城され、天正 18 年（1590）石田三成（いしだみつなり）（1560-1600）が、佐和山城主となってから、5 層の天守を構え、鳥居本（とりいもと）を大手とする立派な城だったといわれます。三成が関ヶ原の戦いで破れた後、井伊直政（なおまさ）が新しい城主になりましたが、慶長 11 年（1606）、彦根城築城にともない廃城になりました。建築物の多くは彦根城や麓にある清涼寺（せいりょうじ）、龍潭寺（りょうたんじ）に移築転用され、現在では佐和山城を偲ぶものは、山腹の石田群霊碑だけとなっています。また、山頂からは琵琶湖や比良山系が一望のもとに見わたせます。

【彦根城】

近世の城で天守が残っているのは、弘前、松本、犬山、丸岡、彦根、姫路、備中松山、松江、丸亀、松山、宇和島、高知の 12 城。このうち、松本、犬山、彦根、姫路、松江の 5 城の天守は国宝です。

は築城以来 5 回目の大改修が完了。天守の 34 種屋根瓦の吹き替えと白壁の塗り替えが中心に行っています。また、彦根城の周囲は特別史跡に指城の北東にある大名庭園で、琵琶湖や中国の瀟湘にちなんで選ばれた近江八景を模してつくられました。4 代藩主直興が延宝 5 年（1677 年）に造営したとされています。



彦根城は、平成 8 年に類約 6 万枚にも及ぶわれ、現代に美しく蘇定されています。

（しょうしょう）八景

【安土城跡】

JR 安土駅の北東、標高 199m の安土山一帯にある織田信長（1534-82）の居城跡。国指定の特別史跡です。天正 4 年（1576 年）から織田信長が約 3 年の歳月をかけて完成しました。安土・桃山時代の幕開けられた本能寺の変後、焼失して石は、堀が巡っていて往時の名残礎石が、また二の丸跡には、豊います。天主閣跡から東へ少し近には、壮大な石垣もありま



として築城されましたが、織田信長が倒垣だけが残っています。安土山の南側にりを留めています。天主跡と本丸跡には臣秀吉が建立した織田信長廟が残って下った黒金門跡（くろがねもんあと）付す。また、山の中腹には家臣団屋敷跡が

あり、山の尾根づたいに北へ行くと八角平や薬師平があります。城山の中心部への通路は、南正面から入る大手道のほかに、東門道、百々橋口道、搦手道などがあります。

城の外壁は各層が朱色・青色・あるいは白色、そして最上層は金色だったといえます。内部は、狩野永徳が描いた墨絵で飾られた部屋や、金碧極彩色で仕上げた部屋などがあり、当時の日本最高の技術と芸術の粋を集大成して造られたといわれています。わが国最初の本格的な天主の建築は、この安土城が始まりとされ、歴史上に名を残す名城跡です。

さ さ き じんじゅ 【沙沙貴神社】

全国の佐々木さん 佐佐木源氏の氏神さまとして敬拝されている神社です。

神話の時代に「少彦名神」（すくなひこなのかみ）さまがササゲの豆の鞘（さや）に乗って海を渡って来た伝説から「ササキ神社」が始まったと伝えられています。

古代の沙沙貴山君（ささきやまきみ）の祖神「大毘古神」（おおひこ）さま「仁徳天皇」（おおささきのすめらみこと）（大鷦鷯尊）をまつり、源頼朝以降 源氏の佐々木氏が近江国の守護職となり「宇多天皇」（うだのすめらみこと）「敦實親王」（あつみしんのう）をまつりました。

この四座五柱の神々を「佐佐木大明神」（ささきだいみょうじん）と称し佐佐木源氏の氏神さまとして現在に至っています。



【福刺土安】

